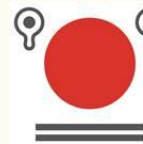


「買いすぎちゃった…賞味期限内に使い終わらない…」、「食べ飽きた」、「災害備蓄品の入れ替え」
「いただいたけど、家族の口に合わないわ…」、「ダイエットは始めるから、いらない」
そんな、

ご家庭に眠っている



食べものに、
もったいないを、
もういちど。
NO-FOODLOSS PROJECT

お米1合
からでも!

食品ありませんか?

第4回フードドライブ開催

フードドライブとは?

ご家庭で余っている食品を持ち寄り、それを必要としている福祉団体、施設に寄付する活動のことです。



●食品の流れ

家庭・企業



フードドライブ



余った食品を預かって支援を必要とする団体に届けます。

福祉団体・施設



※今回は「子ども食堂」へ支援の予定です。

日本では、家庭で廃棄される食べ物のうち、手つかずのままのものが22%も含まれています。しかも、そのうちの4分の1は賞味期限以内のものです。

ご寄付いただきたい食品

- ・お米（1合でもかまいません。）
- ・災害備蓄用の食品
- ・パスタ、素麺などの乾麺
- ・缶詰・レトルト食品・インスタント食品
- ・のり・お茶漬け・ふりかけ
- ・お菓子・粉ミルク・離乳食
- ・調味料（醤油、食用油、味噌など）
- ・その他（下記の食品以外のもの）

以下の食品はご遠慮ください。

- ・賞味期限が明記されていない食品
- ・賞味期限が切れている食品
- ・賞味期限が1ヶ月を切っている食品
- ・開封されているもの
- ・アルコール（みりん、料理酒は除く）

フードドライブ実施日時

「奄美市まなび・福祉フェスタ」内

日時：令和2年2月23日（日）

8：45～15：30

場所：奄美文化センター

お問い合わせ・主催

奄美市役所 環境対策課 生活衛生係

電話：0997-52-1120（直通）

メール：kankyo@city.amami.lg.jp

★「奄美市 フードドライブ」で検索

「もったいない」を「ありがとう」に変えるアクションをあなたから。



「買いすぎちゃった…賞味期限内に使い終わらない…」
「食べ飽きた」
「いただいたけど、家族の口に合わないわ…」
「ダイエット始めるから、いらない。」
「災害備蓄品の入れ替えをしたい。」など、
そんな、食品をお待ちしています。

チャリティイベント「フードドライブ」のご紹介

1 フードドライブとは？

フードドライブとは、ご家庭で、賞味期限は切れていないが、忘れられて保管されたままになっている、「もったいない食品」を、参加者が探し出して持ち寄り、集めて、必要とする人々や支援団体に寄付するチャリティイベントです。

2 その背景は？

日本では、まだ食べられるのに廃棄される食品（食品ロス）が年間 500 万～800 万トンも発生し、それは、お米の年間総収量にも匹敵します。これらは、食品流通関連企業、外食産業、そして家庭から排出されるのですが、家庭で廃棄される量が最も多く、200 万～400 万トンと推測されています。

調査の結果、家庭から出る生ごみの中の 22% が手つかずの食品で、賞味期限がまだ過ぎていない未使用の食品が 4 分の 1 も含まれていたということです。これら家庭で廃棄される未使用の食品は、全量が生ごみとして処理され焼却処分されてしまいます。日本は食糧自給率がカロリーベースで 39% と、世界の中で大変低い国であるにも関わらず、このように大量にもったいない食品を生みだしています。皆様のご家庭にも、**忘れ去られて、そのうち賞味期限が切れて捨てられる「かわいそうな食品」**がありませんか？ それらを救出し、食べ物として大切に活用するのがフードドライブです。

3 フードドライブで持ち寄る食品はどんなもの？

- (1) まず、ご家庭にある、買い過ぎて使い切れない食品、いただき物だが我が家では要らない食品を探します。お米カップ一杯でも大歓迎です。
- (2) フードドライブの実施当日、それを持ってフードドライブの会場にお出かけください。フードドライブの会場に回収ボックスを置いています。

4 フードドライブの効果は？

おそらく、どのご家庭にも、忘れ去られた「かわいそうな食品」が、キッチンの戸棚にあるのではないのでしょうか？ バーゲンでの衝動買い、まとめ買いしたけれど使い切れなかった、などなど。皆がそれに気づけば、家庭からの食品ロスは減少するかもしれません。

そして、これら家庭で忘れられていた「かわいそうな食べ物」も、場所を変えて、それらを必要とする人達に届けば、「今日を元気に過ごすための命を繋ぐ食べ物として、とても大切なもの」に変わります。フードドライブで集めるご家庭から寄付される食品は地域の困っている方々に直ぐ役立ちます。

フードドライブに参加して、「私達の地域を、明るく住みよい場所にするための最初の一步を踏み出してみませんか？ 皆様のご協力をお願いいたします。